

令和4年(2022年)7月24日

東剣連倫理委員長 太田文雄

令和4年度官公庁剣道合同稽古会倫理講習資料

1 倫理についてのルールに関する根拠法規

- (1) 倫理に関するガイドライン
- (2) 倫理規程、倫理委員会規程
- (3) 綱紀規程
- (4) その他
 - ①東剣連の他の規則 (例) 定款、登録会員の規程
 - ②他の規則 (例) 全日本剣道連盟、各加盟団体、国・自治体

<背景事情>

- ・不祥事の発生(体操・空手・レスリング等のパワーハラ、居合称号段位、アメフト)
- ・世の中の変容(コンプライアンスおよびガバナンスの重視、SNS等の情報化進展)

2 遵守事項(ガイドラインI~IV、倫理規程第4条)

- (1) 反倫理的行為
 - ①暴力、パワーハラスメント cf.『武士道』仁・惻隱の心(弱者、劣者、敗者に仁愛)
 - ②セクシャルハラスメント(体に触らない事、事例については口頭説明)
 - ③差別(人種、民族、性別、年齢等)cf.新渡戸稲造国連事務次長の人種差別撤廃提案 性別 cf.五輪書地の巻「女にても(略)其の差別なきものなり」、素行、新渡戸稲造、鉄舟
 - ④ドーピング等の薬物乱用(意図的でなくても黒となる可能性がある)
 - ⑤指導的立場の濫用(口頭で事例説明)、東剣連に通報があった依怙臆員、無視事案
 - ⑥試合・審査の不正操作(スポーツ団体ガバナンスコード規定の原則8:利益相反)
- (2) 不適切な経理処理(利益相反関連で口頭説明、人から後ろ指を刺されないように)
- (3) 大会の選手・役員の選考 ~ 透明性の確保(利益相反を疑われる場合は席を外す)
- (4) 安全・事故防止、一般社会人としての社会規範の遵守
 - ①安全・事故防止(一昨年末竹刀による眼外傷、全剣連「竹刀点検の徹底について」)
 - ②反社会的行為の禁止(違法賭博、反社会的勢力との交際等)

3 違反に対する処分(綱紀規程第3条、4条。一部は全日本剣道連盟の定め)

- (1) 登録会員資格
 - ①停止
 - ②自主返上勧告
 - ③返上
 - ④除名 … 全剣連の承認が必要
 - ⑤厳重注意
- (2) 加盟団体資格
登録会員資格の場合と同様
- (3) 段位・称号について
全剣連がその綱紀委員会規則に基づいて決定 ex.8 段教士、弟子の頭部を木刀で。

(4) 処分の期間、見直し等

- ・無期または有期、執行猶予
- ・復活

4 ルールの適用（綱紀規程第5条以下）

通報窓口 → 事実調査 → 処分審査 → 弁明の機会 → 決定 → 通知

- ・加盟団体から東剣連へ、または、個人から東剣連へ
- ・全剣連のウェブサイト 「倫理に関するガイドラインについて」
- ・全剣連がした処分は、東剣連も同等の処分をしたものとみなす

5 事例検討

- ・熱心な指導⇔いき過ぎた指導。メディアに不祥事→剣道を若者が敬遠→継承困難
- ・大会や審査での不正判定（ex.ボクシングの奈良裁定、利益相反）、お礼の授受
- ・連盟の組織運営（役員等の多様性の確保、新陳代謝を図る仕組み）

参考：「スポーツ団体ガバナンスコード <一般スポーツ団体向け>」ソフトロー。

スポーツ庁が令和元年に策定。中央競技団体向けも有り

6 日々の留意点、心構え

- ・嫌がる事をしない…身体/精神的(cf.鉄舟 20 則:己に心よからず事他人に求めるべからず)
- ・謙虚である事…指導者の立場の逸脱・濫用の戒め(cf. 鉄舟 20 則:幼者を侮るべからず)
- ・清廉、潔白である事…透明性があるか。特にお金。一般の人に向けて説明ができるか

月刊『武道』2021.10

武士道と国際関係

武士道の教えを武道指導に生かす 18 武士道と同盟

❖ 日英同盟の一因は武士道精神

日本は、韓国併合（1910）までの日韓協約を除けば、これまで3回、他国と同盟を結んだ。最初が1902年から23年までの日英同盟、次が1940年から45年までの日独伊三国同盟、そして1960年以降の日米同盟である。

日英が同盟に至った原因は南下するロシアの脅威に対抗するためであったが、締結のきっかけは1900（明治33）年の義和団事件である。中国（清）での乱鎮圧のために8カ国が軍を派遣した。中国の南・東シナ海への進出に米・英・仏・独・蘭が海軍艦艇を派遣している今日の状況は、当時を彷彿とさせる。この時のロシア軍は略奪や暴行が酷かったのに対し、福島安正少将（当時）指揮の日本軍は勇敢で礼儀正しく国際法を順守したため、英国は「日本頼むべし」と計算した。当時の英国は南アフリカのボア戦争に戦力をそがれ、それまで一貫して採ってきた「栄光ある孤立」政策を放棄して日本との同盟に踏み切った。即ち、日本軍が実践した武士道精神が英国をして同盟に踏み切らせた一因と言える。

日本と戦争になった場合に英国も敵に回すことを恐れた米国の圧力により、日英同盟は1921（大正10）年のワシントン海軍軍縮会議で解消に至った。しかし、今日、英国は環太平洋